

RNNReligious NGO Network
On Humanitarian Support
Since 1996世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信仰者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNNニュースレター

そよがぜ

爽やかな風を世界の人々に

発行所

国際貢献ヒア岡山構想を推進する会内

人道援助宗教委員会

委員長：西村美智雄

広報担当：永宗幸信

事務局

〒701-1212 岡山市尾上神道山2770

TEL / FAX 086-284-1242

アドレス <http://www.rnn-center.org/>

RNN事務局長：黒住宗道

インドレポート

6月20日〜27日

報告文：RNN委員長 西村美智雄

(KPAC専務理事)

写真：KPAC事務局長 金井 訓

RNN初の海外災害支援現地ワークを実施
海外特別メンバー・サンガラトナ氏と協力

インド西部地震で崩壊した小学校の再建へ

インド西部地震に関わってRNNでは
毛布支援以来、RNNの海外特別メンバであるサンガラトナ・マナケ氏と連絡を
とりながら現地での直接的な支援活動を
模索し、去る5月2日には永宗幸信副委
員長の自坊、天台宗本性院（倉敷市玉島黒崎）で来日したサンガラトナ氏と具体
化に向けて会談しました。サンガラトナ氏が会長を務めている印
日仏教友好協会（パンニヤ・メッタ協会）
では地震直後から現地に入り現地住民ら
と支援組織を作って活動を進めています。

今年1月26日（現地時間午前8時46分）インド西部グジャラート州でM7.9の地震が発生しました。RNNでは3日後の29日、AMDAの呼びかけに応じて被災地に送るための毛布を緊急募集しました。最上種荷、真言宗、天台宗、黒住教、立正佼成会、天理教、金光教などのメンバーから約1000枚の毛布が寄せられ、31日にAMDAに寄託して、2月1日にチャーター機で岡山空港から現地に届けられました。（『そよがぜ3号』で既報）。

これまでRNNでは、海外で起きた災害に対する支援活動として、支援物資もしくは義援金をAMDAに寄託するという形のみを取ってきましたが、今回は、さらに踏み込んで、発足以来初めて独自ルートによる現地での支援活動に取り組んでいます。西村美智雄RNN委員長が専務理事を務め、トルコ地震、台湾地震で現地での支援活動に実績を持つKPAC金光教平和活動センターを中心に、RNN海外特別メンバーで震災直後から現地入りして支援活動にあたっているサンガラトナ・法天・マナケ氏（印日仏教友好協会・パンニヤ・メッタ協会会長）の協力も得て、震災で崩壊した小学校の再建事業に取り組んでいます。今回の『そよがぜ4号』では、この支援活動の様子を西村委員長の報告文と金井訓KPAC事務局長の写真によって特報することにしました。（編集部）

再建するカルゴパンチャヤティー小学校（正面）



私たちRNNはそうした現地組織の協力を得て主に現地の人々の基本的な生活基盤の回復に関わる支援を行っていくことを申し合わせて、被災地のニーズ調査を依頼しました。そして現地スタッフによる調査の結果、崩壊した小学校再建の要請が寄せられました。

カルゴパンチャヤティー小学校

その小学校は、震源地のブジから南東におよそ50kmに位置する、グジャラート州カッチ郡ガンディーダム町カルゴ村のカルゴパンチャヤティー小学校で、昨年8月15日に建設されたばかりの全校生徒275人の校舎でした。

次頁に続く

そよがぜ
小与加世

子どもの頃、こんな国際化時代が来るとは思っていませんでした。だから英語も中国語もともに勉強しなかった。▼と、言うのはウソになるが、今やアジアその他、外国から日本を見つめることも多くなり、この国は何ちゃ？大丈夫か！と考えるようになった▼日本の国内だけに通用するような言動があるが、それを韓国、中国の地で仰言つたらどうですか、と言いたくなる▼海外にいったい友達が多すぎた。留学生と語ること多い。彼らとまともに話し合える日本の「国際環境」であつてほしい▼今日、どこの国民、民族であるかと言うよりも人間としてどう思うか。人類として一緒に考えましようという時代。国益より人類益、国難よりは地球危機

▼今月、おかやまNGO「子どもサミット」が始まる。子供未来のために出来る努力としてその成功を祈る。

RNN初代委員長
真言宗御室派長泉寺住職
宮本 光研

生徒10人が下敷きになって死亡 教師2人を含む67人が重軽傷

地震当日はこの地方の記念日に当たり、子どもたちは校庭で集会を行っていたところに校舎が崩れ落ち、生徒10人が下敷きになって死亡、教師2人を含む67人が重軽傷を負いました。村全体では16人が死亡したとのことでした。小学校の校舎は政府が除去するということでしたが、未だに放置された状態のままです。コンクリートの屋根が崩れ落ち、柱も壁も傾いている状態はあまりにも危険であり、一刻も早く除去する必要を感じました。

【カルゴ村の概要】

カルゴ村は、ガンディーダームの港湾道路沿い港湾局所有の土地に広がるいわゆるスラムで沿線数kmにわたって約7千人が不法住居しています。住民の多くは港に入ってくる中東からの原油運送などの港湾労働や塩田での日雇い労働で、一日僅か50ルピー程度の収入を得て生活しています。現地はほとんど雨が降らず、広大な土地があっても作物が出来ない土地柄のため、地方出身者（すべてローカースト）は街に出てきて職を求めざるを得ないのです。生活用水はスラム内を通っている水道管から許可なく採取し、電気もありません。行政サイド特に政治家は票田としてのうま味を握る代償としてこうした人々の生活圏を黙認しているのです。政府は死亡見舞金として一人当たり11万ルピー（約3万円）の支給を

約束していますが、カルゴ村の住民には半分の5万ルピーか、または全く支給されていない人々が多いのが現実です。

ガンディーダームには公立の病院がありますが、町はずれに位置してして不便な上、医療技術、設備共に十分ではなく、震災後は夥しい重傷者が運び込まれたものの、ほとんど治療らしい治療ができず、「検死病院」と揶揄される始末だったということでした。

再建プロジェクト開始 金光教式で着工祈願祭

6月22日、現地の様子を一通り見聞し、あらかじめ作成された設計図を元に関係者との間でおよその打ち合わせを行いました。そして翌23日、午前11時から現地で着工祈願祭を金光教式と仏式によって執行しました。

当日は、この地方の新年、学校の新学期に当たり、これまでにない盛大な式典になりました。

式場は天幕が張られ、主賓席後方には「KPACとRNNの支援による建設」と書かれた横断幕が掲げられていました。



着工祈願祭、式典に集まったカルゴ村の人々

式典は、物故者慰霊の黙禱に始まり、女子中学生が民族衣装をつけて歓迎の踊りを披露。次に建設予定地で略式の着工祈願祭を私が金光教式で、サンガラトナ氏が仏式で執り行い、鍬入れを行いました。

続いて式典会場に戻って、歓迎の式典となり、私とサンガラトナ氏からそれぞれあいさつを申し上げ、校長からは「私たちはお金を出すことは出来ないが、支援していただいた学校建設に関わって自分たちの労働力をもって貢献し、大切に使用していただきたい」との式辞が述べられました。式典の最後には印日仏教友好協会が用意した鉛筆等の文房具が子どもたち全員に配られました。

RNN 活動協賛者名

カトリック

黒住教

金光教

最上稲荷教

真言宗

創価学会

天台宗

天理教

プロテスタント

立正佼成会

臨済宗

※右記の名称につきましては協賛者が寺院、教会、団体、個人等の場合でも所属教団、宗派名のみを掲載させて頂きました。（五〇音順）

道路側から見た小学校



プジ市の旧市街の様子。後方の二人は手作業で柱を倒している



【プロジェクトの今後について】

6月24日午前10時から滞在先のホテルで、設計士及び施工業者（この段階で正式な契約はしていない）を交えて契約手続等に関する打ち合わせを行いました。

まず先に提出された設計について、私たちは不要な施設を除き、子どもたちが快適に学習できる校舎の設計を指示しました。建物は鉄筋コンクリート造り、壁は煉瓦組。工事は早くても7月下旬から8月に入ってからで、竣工まで約半年と見ています。プロジェクトの名称は、KPAC、RNN、印日仏教友好協会の共同プロジェクトとして今後関係者と相談の上で決定することにし、プロジェクトの体制としてはKPAC、RNN

Nはスポンサー、現地建築管理責任者として印日仏教友好協会会長のサンガラトナ・マナケ氏が当たり、現地スタッフが日常の管理業務を行うことを決定しました。

RNNメンバーが現地入りし
各宗派による竣工式も予定

今後の予定として、工事開始後途中に一度現地監査を行い、竣工時に竣工奉告祭を執行し、町への引き渡しを行う予定です。

とくにこのたびのプロジェクトはKPACはじめRNNの共同事業でもあり、竣工の際にはなるべく多くの関係者と共に臨み、それぞれのスタイルでの竣工奉告祭を同時執行したいと願っています。



中央がサンガラトナ氏。向かって右手が西村委員長、その右隣がチャクララン（サンガ氏の弟）。左端が弁護士マナケ氏。後列右から2人目がマナケ氏。



フジ中の旧市街の様子。ようやく建っている建物は以前からこのような見通しのよい景観だったのではなく震災前は密集した住宅地だったもの。この建物の周囲の建物はことごとく倒壊して見る影もない。



【視察を終えて】

インドの歴史は多様な民族の移動と侵入と興亡、古代にまでさかのぼる陸路と海路の東西貿易によって彩られてきました。その遺産の一つがインド亜大陸に居住する民族・部族と宗教の多様性です。諸民族の侵入と興亡は民族間の支配と被支配の歴史であり、またヒンズー教とインドの気候風土の中から誕生したカースト制度はインド社会を上下に明確に階層化し細分化する社会秩序を構築しています。

インド滞在はあまりにも短く、しかも一部しか触れることは出来ませんでした。そこは地理的にも価値的にも広く、そして深いということ

を実感させられました。それは掴みどころのない形状不定形の巨大な社会様式であり、多くの宗教、民族が持つ求心性と遠心性ともいべき多様なベクトルが織りなす混沌と秩序であり、一方で深い宗教性に出会いながら、他方陰惨な世俗社会が存在し、生きるということにどこまでもどん欲な精神が横溢している場所であつたように思います。

そこがいかなる社会であろうと、そこに生きる人々が困難に当面し、支援を必要としている限り、できるだけの手をさしのべていくことが宗教者グループであるRNNに与えられた使命と信じています。一宗団、一教会では難しくても、同じ宗教者

の立場から手を結び力を合わせていくところに、ひとつの救いを現すことができます。そしてこれこそが宗教者ネットワークの真価ともいえるのではないのでしょうか。（西村）

◆ 第一次中間会計報告 ◆

RNNに寄せられた募金は7月末日現在で、2084620円が寄せられており、去る4月19日にAMDAに寄託した777486円を差し引いた残りの847897円を今回の小学校再建事業の資金としております。これにKPACからの約2100000円、金光教本部からの1000000円を加えた総額約400万円で再建事業に取り組んでいくことになりました。



式典で舞踊を披露してくれた少女たち

カンルンガン・サ・エルマがミュージカル公演 9/5～6に来岡 沙美小学校と宗忠神社で公演



RNNメンバーであるKPAACは、今年9月カンルンガン・サ・エルマ（マニラのストリートチルドレンの保護・救済に取り組むKPAACのカウンターパート。98年RNN

Nスタディツアーの際にも訪問）の子どもたちによるミュージカル日本公演を実施することになりました。出演は全員元ストリートチルドレンだった子どもたち10人で、彼らがたどってきた経験をもとにした物語をオリジナルの歌をバックに上演します。一行は9月5日に岡山入りし、6日の午前9時から倉敷市立沙美小学校で、同日午後6時半から岡山市上中野の宗忠神社で公演と交流会を行います。ぜひご来場ください。

第8回おかやま国際貢献NGOサミット 「2001こどもサミット開催」8/22～25

8月22日から岡山市のままかりフォーラムをメイン会場に「国際姉妹校2001こどもサミット」が開催されます。海外12校から50人の子どもたちが参加して、日本の子どもたちと玉野市の渋川青年の家などでキャンプやレクリエーションなどで交流を深めることになっています。

今年、サミットの性格上、私たちRNNとして直接的にかかわるプログラムはありませんが、最終日の25日午後6時半からままかりフォーラムで行われます岡山リコーダーアンサンブルとフィリピンの子どもたちの出演によるチャリティコンサートに協力する形で、企画させて頂くことになりました。このチャリティサミットに参加する子どもたちの渡航費、滞在費に充てられることになっています。

「庭野平和財団シンポジウム2001」 黒住RNN事務局長がパネラー

庭野平和財団シンポジウム2001が5月12日に立正佼成会京都普門館にて行われました。黒住事務局長は3名のパネリストの一人として出席し、RNNの活動についても発表しました。シンポジウムは庭野平和賞受賞者、エリクス・チャコル師の基調発言、パネリストの発表、引き続いて討議、またフロアからの質問に答えるセッションも行われ、真剣か



つ熱気溢れる有意義な討論会となりました。講演内容は（<http://www.npf.or.jp/>）に掲載されております。

ナーガボディー氏3年間の修行を終え、インドに帰国 6/12定例会に合わせて送別会開催

このほど、インドの佐々井秀嶺上人の命を受けて、インドから来日し、長泉寺の宮本光研住職（RNN初代委員長のもと3年間の修行をし、日本の大乘仏教を学ばれてきたナーガボディーさんが、インドに帰国することになり、6月12日の定例会は、ナーガボディーさんの送別会を兼ねて岡山市本町の「龍昇菜館」で開催しました。日本の風景の写真集やRNNロゴ入りTシャツに全員で寄せ書きしてプレゼントしました。



ナーガボディー氏（前列向かって左から2番目）を囲んで

んのボンベイ入り（6月16日）と、被災地へ向かう西村委員長と金井氏のボンベイ到着予定日が近いことが分かり、互いに連絡を取り合って合流しました。現地での心強い味方であり、有り難くもRNNのネットワークの賜物であります。

第6回ボランティア講座 5/2 天台宗光珍寺 サンガラトナ氏がインド地震の報告

第6回目となるRNNボランティア講座が5月2日午後5時から、岡山市摩屋町の天台宗光珍寺で開催されました。前回に引き続き、今回も天台仏教青年会の主催行事にRNNが共催者として参加させて頂きました。



天台宗がバンニヤ・メッタ協会に支援した巡回医療車。カルゴ村で診察、投薬など医療サービスを行っている。

既報のように、サンガラトナ氏はインド西部大地震の支援活動現地入りして展開しておられ、この度の来日も当該地震の支援活動のための募金や協力の依頼等が目的でした。

組曲「ひろしま」を歌う バルディ睦子さんが熱唱

「子どもサミット」のプレイベントとして宮本初代委員長との縁でRNNとも馴染み深い、ソプラノ歌手のバルディ睦子さんによる組曲「ひろしま」（被爆詩人・橋爪文さん作詞、青英権作さん作曲）のコンサートと、橋爪

さんの講演会が、7月3日午後7時から岡山市幸町の西川アイプラザを会場に開催されました。カトリック岡山教会の協力もあり、会場には客席数を超える280人もの市民が集まり、素晴らしいコンサートになりました。

このほどRNNのHPが開設されました。また、十分なものは言えませんが、そよぜ表紙の右上のアドレスでアクセスできます。これに伴い、RNNへのメールアドレス（info@rnn-center.org）にて皆様のお問い合わせや意見、アドバイス等を受け付けて頂けるようになりますのでご活用下さい。

へんしゅうこうき

●義援金 協賛金等は
郵便振替口座
加入者名RNN
01310・9・639933
で受け付けております。

い。なお、予定しておりましたRNNメンバー紹介シリーズ「立正佼成会編②」は次号に変更させて頂きます。（そよぜ編集室）